

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「基本を学び、地域と共に」

高田ロータリー今年の
スローガン

「ロータリーを識り、
奉仕を实践し友情を深めよう」



人類に
奉仕する
ロータリー

2016～2017年度

国際ロータリー会長 ジョンF.ジャーム

2560地区ガバナー 田中 政春

高田ロータリー会長 本山 秀樹

幹事 中田 正

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号

TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534

メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp

例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員

加藤 卓也 伴 長門 斉藤 光雄 佐藤 芳徳

第26回例会 ■ 1月20日(金)

No.26

会長挨拶 ● 本山 秀樹



お正月気分もようやく抜けてきた頃だと思いますが、今日は二十四節気の大寒です。文字通り「大きく寒い」一年のうちで最も寒い時期とされています。今日から立春の前日までが大寒の時期と言われ、統計的にも最低気温になることが多いそうです。昔から、この寒中に汲んだ水を「寒の水」といい、特別な力があるとされてきました。この時期の水は雑菌が少なく「寒の水で作った味噌や醤油やお酒は腐らない」とも言われ、大寒の日に取れた卵は「金運や健康運が上がる」として縁起が良いとされています。昨日長野市の西宮神社に行ってきました。毎年1月19・20日と「初えびす」が開かれます。商売繁盛や五穀豊穡のご利益があるとされる「御種銭(おたねせん)」を求める参拝客で賑わっていました。御種銭は商売などする際にもととなるお金の意味で、18日の前夜祭で御種銭に使う100円玉5,000枚に商売繁盛の神「えびす様」の魂を入れる儀式があるそうです。そして、「御種銭」は参拝客に1年間貸し出され、商売や仕事などに使うことでご利益があるとされ、翌年の初えびすの際に2倍にして神社に返すことで「えびす様」との縁をつなぐのが習わしだそうです。

出席報告

出席率 98.31%

メイクアップ

高坂光一君・飯塚宏佳君（1/22 高田 RAC 早朝清掃）

委員会報告

出席・ニコニコBOX委員会

小熊貞良君——娘が今年3年目に入る修行先の会社で、1月からカメラマンとしてプロフィールを会社のHPにのせて頂きうれしく思っております。

社会奉仕委員会

2/10 オークション開催のご案内

幹事報告

配布物：週報No.25・2016-17年度委員会配属表(最新)

報告：糸魚川大火義援金について（例会中に39,000円集まりました。総額105,500円）

2月例会プログラム

回	日	講演者：演題	会場
28	2月3日	新潟県立看護大学 准教授 渡辺 弘之 先生 「新潟県立看護大学のベトナムとの国際交流」(仮)	デュオ・セレッソ
29	2月10日	オークション	高田ターミナルホテル
30	2月17日	会員卓話 夏井 陽三 君 「最近のニュースについて」	デュオ・セレッソ
31	2月24日	卓話者 未定	デュオ・セレッソ

卓話

上越市立水族博物館が目指すもの



新規開業に向けて、上越市立水族博物館が目指すものについてお話をさせていただきます。

まず、私は株式会社横浜八景島という企業に所属しており 2015 年に指定管理者となりました。横浜八景島は、横浜の南のはずれにある人工島に八景島シーパラダイスとして 4 つの水族館、14 機種のアトラクション、ヨットハーバー等々があるレジャー施設です。一昨年から、全国展開をはじめ、上越市のほか、仙台市のうみの杜水族館、品川プリンスホテル内のアクアパーク品川の運営も行っています。

水族館協会では水族館の目的は、教育、レクリエーション、自然保護・啓蒙、水産動物の研究などと決められていますが、簡単に言えば、お客さまに生き物と自然の魅力を知ってもらふ施設だと思っています。これが入り口となり最終的には自然保護の啓蒙・啓発につながるものと考えています。一昨年世界水族館協会と揉めたイルカショーもそうですが、今後益々自然保護の流れが強まります。北米やヨーロッパでは水族館自体が動物を虐待する施設という見方が強まっています。水族館がしっかり自然保護のメッセージを伝える施設と位置づけられる必要があり、そのためには楽しく集客できる施設でなければならないというのが私の考えです。

私が水族館に入った 20 年前には人が水族館に行くのは一生に 3 回だといわれました。1 回目は子供の頃の遠足で、2 回目は結婚してお子さんを

上越市立水族博物館 館長 櫻 健太郎 様

連れて、3 回目は孫を連れての 3 回です。1980 年代に大型水槽を導入する水族館が増えるとデートコース化が進みました。大人が来れば客単価も上がります。2015 年 2 月に私が上越市に来たときも、多くの方が水族館は子供の時しか行ってないと言っており、これを変えていくことが必要だと感じました。先ほどの 3 回に大人をターゲットにデートを追加すれば 4 回、5 回以上になるのです。

上越市立水族博物館は独自に「すいはく新聞」を発行しています。最初は当館だけで張り出していたのですが、直江津のいろいろな皆さんに協力していただき、当初 50 部位だったのが今では約 800 部を発行するまでになりました。入館者の 2 割から 3 割がすいはく新聞を見てお越しになっています。昨年度の入館者数は 19 万 5 千人ですが今年度は今現在で昨年を約 3 千人上回っています。このままうまく頑張れば 20 万人の大台を達成できるかもしれません。

上越の場合、新水族館の規模はごく普通で上越市自体も特に名物はありません。しかし、最大の武器は街の方々の協力姿勢です。村山市長の言う「街を元気にする施設」になれば更に人々が来るようになるでしょう。上越には夕日や雪、桜、日本酒等魅力的なものがたくさんあります。新幹線が通って首都圏からも来易くなりました。街を元気にし、街に元気にしていただける、そんな施設にしていきたいと思いますので、皆さんのご協力をお願いいたします。

ロータリーの友 1 月号より (前回のつづき)

【ロータリーの核は変わらない】

ジョン F. ジャーム RI 会長

「ロータリーは、今、まさに分岐点にいます。(4月の規定審議会は) これまでで最も進歩的な審議会となりました。私たちが奉仕する地域社会を真に反映するクラブを築くことのできる大胆な決定だったといえます。つまり、多様なスキル、背景を持った人たちを受け入れるクラブということです。～ロータリーは常に変化し、前進するために時代に適応してきました。しかし、ロータリーのエッセンスと、私たちがロータリアンたらしめるものは決して変化しません。ロータリーはこれからも職業分類の原則に従います。多様性こそ、私たちの強みだからです。」